令和7年度　飯塚市事務事業評価シート

令和　8　年　6　月　19　日　作成

事務事業名	飯塚新人音楽コンクール運営事業	事務事業No.	562 - 2

1．基本情報

担当部	担当課	担当係	作成者職名	作成者氏名	所属長職名	所属長氏名
教育部	文化課	文化振興係	担当	中島	文化課長	瀬尾　善忠

施策体系				
総合計画	政　策	5	教育・文化
	施　策	6	文化芸術の創造
	基本事業	2	文化・芸術活動の機会や場の充実
その他の計画	個別計画		飯塚市文化振興マスタープラン

根拠法令・条例・要綱等	文化芸術振興基本法、飯塚市文化振興基本条例、飯塚市社会教育団体補助金等交付要綱				
事業開始年度	昭和57年度	事業終了年度	－	事務事業類型	ソフト事業
実施手法	全部直営	補助金等の支給	補助金等あり	実施計画期間	－

2．事務事業の概要及び目的（決算成果説明書と連動）

概要	優れた新進演奏家の発掘育成と地域音楽文化の充実を図るため、ピアノ・声楽2部門の飯塚新人音楽コンクールを実施している。飯塚文化連盟を主管とし、飯塚市及び飯塚市教育委員会を含む７者を主催とし実施している。本市としては文化連盟に対する補助金の交付や企画会議への参画、広報、開催当日の市職員の動員等を行い、運営に対して支援を行っている。
対象　働きかける相手・もの	・飯塚文化連盟 ・全国各地の新人演奏家
手段　方法・働きかけ（活動指標）	補助金の交付、会議への参画、広報活動、国県への伝達、当日の市職員の動員等の支援を行う。
意図　対象をどのようにしたいか（成果指標）	新進演奏家の発掘育成の推進及び地域音楽文化のさらなる充実を図る。

3．活動指標（決算成果説明書と連動）

指標名	単位	指標の説明（算式等）	前年度実績	本年度実績	次年度見込
会議への参加回数	回	事業の実施に係る飯塚文化連盟の会議への参加回数	6	6	6
広報活動実施回数	回	市報、HPへの掲載、のぼり旗設置等の広報活動実施回数	8	8	8

4．成果指標（決算成果説明書と連動）

指標	予選応募者数	単位	達成目標値		前年度実績	本年度実績	次年度見込
		人	90	目標値	90	90	90
説明	予選応募者数	方向性	達成目標年度	実　績	96	81	
		維持	毎年度				

指標	予選・本選入場者数（6～8年度予選は3日間ではなく2日間開催）	単位	達成目標値		前年度実績	本年度実績	次年度見込
		人	1200	目標値	1200	1200	1200
説明	予選・本選入場者数（6～8年度予選は3日間ではなく2日間開催）	方向性	達成目標年度	実　績	890	665	
		維持	毎年度				

指標		単位	達成目標値		前年度実績	本年度実績	次年度見込
				目標値			
説明		方向性	達成目標年度	実　績			

5．事務事業実施にかかるコスト（決算成果説明書と連動）

経費区分	一般会計	経常経費	特別会計	－

予算科目・事業	会計	1	一般会計	款	10	教育費	項	5	社会教育費	目	1	社会教育総務費
	大	7	文化振興事業費	中	3	飯塚新人音楽コンクール運営費	他	0	事業			

投入人員（当該事務事業に対して１年間に投入した人員）	（R2以降）	前年度実績（千円）			本年度実績（千円）			増減理由（10%以上の場合）	次年度予算（千円）		
	正職員	0.40	人	3,258	0.40	人	3,397		0.30	人	2,548
	任期付職員(保育士)	0.00	人	0	0.00	人	0		0.00	人	0
	任期付職員(子ども家庭支援員)	0.00	人	0	0.00	人	0		0.00	人	0
	任期付職員(CW・水質)	0.00	人	0	0.00	人	0		0.00	人	0
	再任用フル	0.00	人	0	0.00	人	0		0.00	人	0
	再任用短	0.00	人	0	0.00	人	0		0.00	人	0
会計年度	1級フル	0.00	人	0	0.00	人	0		0.00	人	0
会計年度	1級パート	0.16	人	421	0.16	人	468		0.16	人	468
会計年度	2級パート	0.00	人	0	0.00	人	0		0.00	人	0
人件費計（A）		3,679			3,865			－	3,016		
事業費	直接事業費（B）	1,065			1,074				1,507		
事業費	総事業費（A＋B）	4,744			4,939				4,523		
直接事業費のうちの主な歳出内訳	負担金補助及び交付金	950			950				1,350		
直接事業費のうちの主な歳出内訳	報償費	99			103				102		
財源内訳	使用料・手数料（受益者負担分）	0			0				0		
財源内訳	国・県支出金	0			0				0		
財源内訳	市債	0			0				0		
財源内訳	一般財源	4,744			4,939				4,523		
財源内訳	その他（　　）										

6．事務事業の事後評価★

評価視点	評価	評価の理由、または認識している課題を記載
妥当性評価	高い	市民組織による「飯塚新人音楽コンクールを育てる会」によって財政の基盤が支えられ、開催当日は多くの市民ボランティアによって運営がなされる等、市民の主体的な運営により地域音楽文化の向上に繋がっている。現在では新人演奏家の登竜門として定着し、毎年全国各地から多くの出場者があり、本市の文化振興事業として継続していく必要がある。また、事業発足当初から市も主催者の一員として参加しており、関与の必要性は高い。
効率性評価	高い	行政も主催者の一員として市長賞や教育委員会賞の交付、各広報媒体での情報発信、のぼり旗や横断幕の設置、県や国への書類申請、開催当日の職員の動員等の役割を担っている。各主催者で適正な役割分担ができており、市としての業務改善の余地は低い。
有効性評価	高い	新人演奏家の登竜門として毎年全国各地から出場の応募があり、また地域の活力を生み出すイベントとして「ふるさとイベント大賞」優秀賞を受賞し全国に紹介される等、飯塚市の文化振興に寄与する事業としてだけでなく、飯塚市の魅力をPRする事業として有効性が高い。

7．前年度評価時の計画と実績

前年度評価★		前年度記載した改善策（課題解決や改革・改善に向けて、予算を含めた具体的な方策）★	
評価区分	成果の方向性	次年度以降にコスト（人・予算等）を必要とせず、ただちに実施できる改善策	一般入場者数を確保するためにSNS掲載や各施設へのポスター掲示等さらなる周知を行う。
一次評価	拡充		
	コストの方向性	次年度以降にコスト（人・予算等）を必要とし、中長期的に実施する改善策	-
	現状維持		

前年度改善策に対する実績　★　　※上記の改善策に対して今年度に実施できたこと、などを記入

実施主管である飯塚文化連盟と連携、情報共有しつつ市長賞や教育委員会賞の交付、各広報媒体での情報発信、のぼり旗や横断幕の設置、県や国への書類申請、開催当日の職員の動員等を行い、行政としての役割を果たすことができた。

8．今年度評価における成果と課題（決算成果説明書と連動）★

【成果】　実施主管である飯塚文化連盟と連携、情報共有しつつ市長賞や教育委員会賞の交付、各広報媒体での情報発信、のぼり旗や横断幕の設置、県や国への書類申請、開催当日の職員の動員等を行い、行政としての役割を果たすことができている。

【課題】　コロナ禍以前に比べて入場者数が大きく減少しており、事業の魅力を地域の人々に広めるために広報にさらに力を入れ、入場者数を確保する必要がある。

9.今後の事業の方向性と改善策

成果の方向性	【理由】
拡充	本選の入場者数についてはコロナ禍以前に比べて減少しており、SNS等を活用した周知を行うことにより増加を見込めるため
コスト投入の方向性	【理由】
現状維持	飯塚市の文化振興に寄与する事業として、また、飯塚市の魅力を発信する事業として今後も継続する必要があるため

次年度以降の改善策（課題解決や改革・改善に向けて、予算を含めた具体的な方策）★	
コスト（人・予算等）を必要とせず、ただちに実施できる改善策	一般入場者数を確保するためにSNS掲載や各施設へのポスター掲示等さらなる周知を行う。
コスト（人・予算等）を必要とし、中長期的に実施する改善策	-

2次評価（最終評価）	**成果の方向性**	新人演奏家の登竜門として若手育成に寄与しており、参加者・入場者の減少にはレベル向上やコロナ禍の影響もあることが考えられるため、現段階の事業の方向性としては現状維持とする。なお、質を保ちながら入場者を確保するため、入賞者による演奏機会の創出と広報の重点化を進めておくことが必要と考えられる。
	現状維持	
	コスト投入の方向性	運営はボランティアが中心で、補助率も総事業費の1割程度であり、補助水準には一定の合理性があると思料する。文化連盟内に事務局を置く別会計により実施され、決算書による収支の確認も行われているが、要綱上の定額を基本として支出する仕組みであることから、確認結果を補助額の算定に反映させる運用の明確化について、検証の余地が推察された。なお、現段階のコスト投入の方向性としては現状維持とする。
	現状維持	